

令和4年度 第4回出雲市環境審議会 会議概要

日時 令和5年(2023) 2月8日(水) 10:00~12:00

会場 出雲商工会館 6階大ホール

1) 次第

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 議事

(1) 出雲市環境総合計画について

- 資料 【事前送付】 出雲市環境総合計画(案)
【事前送付】 第3回環境審議会からの主な修正点
【事前送付】 出雲市環境総合計画(案)に対する意見(パブリックコメントと対応)

- 当日資料① 第4回環境審議会「事前質問・意見及び回答」一覧
当日資料② 第4回環境審議会資料事前送付後の修正点
当日資料③ 第4回環境審議会資料事前送付後の修正頁(抜粋)
当日資料④ 資料編

(2) 第3次出雲市ごみ処理基本計画について

- 資料 【事前送付】 第3次出雲市ごみ処理基本計画(案)

- 当日資料⑤ 第3次出雲市ごみ処理基本計画(案)について

(3) 答申について

4. その他

今後の主な予定

2月15日(水)	市長への答申	
3月	出雲市議会(3月議会)	計画の説明

2) 出席者

【委員】

		氏名	所属・役職等
1	会長	森本 直知	(一財) 大社湾漁業振興基金専務理事
2	副会長	吾郷美奈恵	島根県立大学看護栄養学部教授
3	委員	板倉 一郎	出雲市議会環境経済委員会委員長
4	委員	本田 一勇	出雲市議会環境経済委員会副委員長
5	委員	烏田 富夫	出雲市環境保全連合会久多美支部会長
6	委員	岩崎 知久	環境省環境カウンセラー
7	委員	三島 要	出雲市環境保全連合会多伎支部会長
8	委員	甲山美紀恵	大社地域自治協会連合会理事
9	委員	山田 康弘	出雲市環境保全連合会伊波野支部会長
10	委員	豊田 知世	島根県立大学地域政策学部准教授
11	委員	珍部 誠	島根県農業協同組合出雲地区本部 常務理事本部長
12	委員	柴田 研司	中国電力ネットワーク(株) 出雲ネットワークセンター所長
13	委員	清水 康子	元平田地域協議会副会長
14	委員	米原 誠	環境マネジメントシステム審査員
15	委員	狩野 好宏	出雲保健所環境衛生部環境保全課長

【事務局】

		氏名	所属・役職等
1		三島 慎也	地域環境部長
2		角 健二	地域環境部次長 環境政策課長
3		園山 博之	環境政策課 ゼロカーボン推進室長
4		青木 保徳	環境政策課 課長補佐
5		金築 敏幸	環境政策課 環境保全係長
6		山根 進	環境政策課 ゼロカーボン推進室 係長
7		日野 恭美	環境政策課 ゼロカーボン推進室 主任
8		森山友香子	環境政策課 環境政策係 主事
9		安田 弘和	環境施設課長
10		江角 裕之	環境政策課 主査
11		江角 健	環境政策課 減量推進係長

【委託業者】

		氏名	所属・役職等
1		勝部 祐治	(株) エブリプラン 専務取締役

3) 議事要旨

(1) 出雲市環境総合計画の素案について

事務局 説明 当日資料1 事前送付した際、委員2名からご意見をいただき修正した一覧
当日資料2 事務局側で修正した一覧
当日資料3 修正頁の抜粋
当日資料4 資料編 7項目について記載

委員 木質バイオマスの利用促進（林地残材の活用）の記載があるが、どのように進めていくのか。

また、事業者アンケートの結果表記について、複数回答のものとそうでないものが分かるような記載をするといいい。

事務局 木質バイオマスについて、現在森林の状況を把握中である。今後、林地残材をチップにして燃料として使う等、効率的に利用ができるよう、森林政策課と一緒に考えていく。

当日資料③下部番号p.48にあるように森林整備面積や間伐等実施面積目標を数値として設けている。現状149haである森林の整備をやりながら、この中で出る林地残材も活用してすすめていく予定である。

事業者アンケートについて、複数回答可としているものも何か所かある。どの項目か確認後、追記する。

委員 事前送付資料p.78「推進する施策」に「水辺の親水空間を生かした環境学習の場づくり」と、これはこれでいいなと思っているが、p.64の3-1-②下段に「水辺環境の保全と活用」という言葉はあるが、具体的には「ワイズ・ユース（賢明な利用）」ということしか書かれていない。前にも言ったと思うが、「水と触れ合える施設の整備、利用促進をはかる」といった内容を入れてほしい。

また、事前送付資料p.38「推進する施策」に「ポイント制度導入」とある。環境ポイントは市民の意欲を掻き立てる有効な手段だと思うが、ごみ処理の関係の「食品ロス」や「ローリングストック」の普及啓発、福祉との連携もしたらどうか。アンケートの中にも「フードバンク」「こども食堂で「食品ロス」をなくす」といった意見があったと思う。例えば、「出雲いつも食品ゼロ」というスローガンで取り組んではどうか。10月に食品ロスの日と提案しているが、もっと頻繁にタイミングを見計らいながら不用品の物々交換など提供する機会を設けるようにしたらよいと思う。4月入学等一番適した時期があると思うので、見極めてアピールし、定着させるため年に3～4回してはどうか。意識改革のきっかけになるよう、この環境ポイントにうまくリンクさせて効果的に取り組んでほしい

事務局 水辺環境の保全について、ハード整備は費用がかかったり、国や県保有の施設だと市の立場からどのようにするといったことを明確に記載しにくかったりする。今回改めてご意見をいただいたので、市としても推進していくという方向で記載を検討する。

ポイント制度導入について、年間を通して市民が取り組める仕組みを複数項目入れようと思っている。海岸清掃、ごみ拾い、食品ロス等の環境問題だけではなく福祉等も巻き込みながら行動が広がっていくように検討したいと思う。

委員 国土交通省出雲河川事務所と先日話をした。国土交通省も水辺環境を活用してほしいという考えが一緒だったことを申し添える。

委員 保健所としてはなかなか明確にお答えできない部分もあるが、宍道湖・中海・出雲市内神門川等、水辺環境に親しむ内容を県の環境総合計画でもうたっている。水辺の環境を構築していくということはすすめているけれども、他部署との絡みもあり触れ合える場所の構築までは至っていない。地元の声を国や県に要望として伝えていっていただくことが重要だと思う。今後も意見交換をしていっていただきたい。

委員 事前送付資料 p.50 に「公用車における電動車導入率 100%」とある。先日、水素研究をしている方に会い、水素エンジンや水素燃料について、国も検討しているそうだ。ただちに 2030 年に 100% とするのではなく、国の研究開発結果を待ちながらすすめてはどうか。充電スタンドの整備にはコストもかかるが可能なのか。もう少し長期的にみたらどうか。

事務局 100% は国の事務事業編をもとに作成した。充電スタンド設備の設置については、電気自動車を入れる際は当然考えていかなければならないと思うが、現時点では電動車は電気自動車だけではなくハイブリッド車も含まれており、そのような販売のない特殊車両や災害対応車を除いた代替可能なものを母数として 100% と考えている。そのため、まずは母数が絞られているところで 2030 年度 100% を目指し、その後国の研究開発結果が出たときには母数を広げて 100% を目指していきたい。

委員 水素についても考えながら、2050 年度まで視野に入れて考えていただきたい。

委員 文章の伝え方として提案したい。事前送付資料 p.78 「推進する施策」に「学校教育等における環境教育の推進」という項目があるが、以下 2 点変更してはどうか。

「小中学校での環境教育の推進」→「小中学校における環境教育の推進」

「高等学校や高等教育機関における環境教育推進～」→「環境教育の推進～」

事務局 ご指摘のとおり修正し、他の箇所についても点検する。

- 会 長 事前送付資料 p.5 「グリーン成長戦略」について、数値目標があり達成に向けて大丈夫か心配するところである。今までは公害防止対策をすれば経済の成長が阻害されるというような捉え方だった。現在は環境対策が経済の成長戦略につながるといわれようになっている。最近では電気代が高くなったとよく聞かすが、エネルギー分野における環境対策がどうなっているのか、関連委員にご意見いただきたい。
- 委 員 発電所は中国電力となるので詳しく説明しかねるが、中国電力は CO₂を排出する火力発電所が多くあるので、バイオマス発電の推進や水力発電の発電能力向上を進めているところだと思う。最近電気料金上がっているということであるが、原因は燃料費高騰もあるが、再生可能エネルギーとなる発電箇所のリプレイスもある。中国電力ネットワークは電気を運ぶ仕事だが、こういった再生可能エネルギーを受け入れるようすすめている。託送料金も4月から値上がり予定だが、再生可能エネルギーを取り入れるため、効果的に使わせていただく。原子力発電所で燃料費をカバーすることもあるとは思いますが、エネルギーは市民の生活の基盤である。ご迷惑にならないようしっかり頑張っていきたい。
- 会 長 エネルギー関係では、ご説明のような考え方になっていっているということをご認識いただきたい。
- 委 員 事前送付資料 p.4 2に「中小水力発電」とあるが、中小水力発電をやろうとすると企業が自ら調査をして実施するイメージか。緑豊かな出雲の地で水力発電を推進するなら、市が助成したらどうか。助成がないと数字がすすまないのではないか。また、エネルギーの地産地消をすすめるという考えから地域の自治組織と協力してモデル事業調査費補助をつくらない限り絵に描いた餅になるのではないか。
- 事務局 数字達成には企業に期待する部分が多分にある。支援については、現時点で具体的案はないが市も支援する方向で考えている。現在ポテンシャル調査をしているのでこれから考えていきたい。個人が行うマイクロ水力という考えもあるようだ。情報収集しながら考えていく。
- 会 長 市からの財政的バックアップをお願いしたい。
- 副会長 市民の立場からの満足度や重要度の図があるのが良い。しかし、策定経過にある説明会の参加人数が少なく、市全体としての市民の関心の低さが伺える。地域の組織を動かさないと、なかなか動かないと思う。ポイントとなる仕掛けを今から考えていかないといけない。水辺の学習では川跡ビオトープ等なくなってきていると聞いている。また子どもエコクラブも数が少ない。学習内容の薄い組織を作るのではなくラムサールに行けるような本気で考える組織をつくる等、こどもの学習も後援できるように、市民におろしていく仕掛けをつくってほしい。

事務局 地域の組織については、出雲市環境保全連合会支部と日頃からやり取りしており、まずはそこから支援をしていく。子供たちについては上津・鰐淵といった地域をあげて支援をしている地域もある。そのような地域を拡大するために、課題を洗い出し、委員からご提案いただいたような環境団体との意見交換から効果的な方法を考えていきたい。次年度から動き出すため、各委員にも協力いただきたい。

委員 市としてのPRが少ないのではないかと。広報1月に掲載された出雲市の主な「できごと」で1年の動きが紹介されていたが、出雲エネルギーセンター建替については3～4行しかなかった。自分の周りの反応も「(出雲エネルギーセンターは)知らないうちにできたね」という感じだった。旧出雲エネルギーセンターができた時には、どこからごみが集まるのかという情報も事前に発表があり、できる前からたくさん広報があった。以前豪雨災害でトラックが渋滞したことから、出入口を2か所にした等工夫したところがあると思う。数十年に一度のエネルギーセンターなので、もっとPRしてはどうか。

また、アンケート回答1000人といっても、出雲市民全体からすると割合が少ない。当日資料③下部番号p.41の「なぜ私たちの行動が必要なの？」というような市民に訴えかけるような何かが必要だと思う。

事務局 広報手段としては、広報いずも・市公式ホームページ・環境ホームページ「出雲エコなび」・市SNS（Facebook・Twitter）があり、それらを用いて周知している。不十分な点もあったと思うが、ワークショップでは「情報が多すぎて情報に埋もれてしまう。」といった意見も出た。時代やニーズに即したツールを考えていきたい。また、本計画の中でも環境情報の発信については評価していく。環境教育・環境保全活動の拡大とあわせて、環境情報の発信についても考えていく。

（2）第3次出雲市ごみ処理基本計画の素案について

事務局 説明 当日資料5 事務局側で修正した一覧

会長 身近なごみ処理計画である。海岸漂着ごみ（マイクロプラスチック）について注目されているところであるが、廃プラスチックに対する今後の取組について伺いたい。

事務局 プラスチックは容器包装等色々なものに使われているが、現在柔らかいものは可燃ごみとして、硬いものは破碎処理した後に燃やして処理している。国の方針として柔らかいものも硬いものもリサイクルするよということなので、現在「モノにかわるリサイクル」を考えている。不燃物のあり方検討で、老朽化した4施設について検討するが、廃プラについては将来分別するためにも施設の中で処理をしていくよう検討中である。今は電気にかえているが、将来的にはケミカルリサイクルできるよう考えている。

委員 事前送付資料 p.25 の「てまえどり」について スーパーに掲示があり子どもが興味を示す場面を見た。例えば、「てまえどり」の掲示に朱鷺の絵をおき、「てまえ鳥（どり）」を連想させると興味がわいて面白いかなと思う。

会長
事務局 食品ロスについてはどうか。
事前送付資料 p.25 の「ごみ組成調査」について、図19にあるような食品ロス3%をいかに少なくしていくかが課題だと思う。広くPRするため、出雲エネルギーセンターで食品ロスをはじめ学習できないかと思っている。小学4年生をはじめ大人も見学に来ており、約60団体4000人程度の見学者数となっている。出雲エネルギーセンターを活用していきたい。

副会長 食品ロス3%というのは、燃やせるごみ全体（100%）のうちの3%か、生ごみ37%のうちの3%か、どちらなのか。

事務局 燃やせるごみ全体（100%）のうちの3%である。200kgの生ごみのうち、6kgが手つかず食品、消費途中の食品だった。データとして固まっていないところもある。今後継続的調査をして、数字傾向をつかみたい。

副会長 調査を増やしてほしいという意味で言ったのではなく、見せ方として3%が少ないと思われぬように「1割」という表記にしたりしてはどうか。多いなと感じるような見せ方を検討してほしい。

事務局 表記については検討する。また回数については、今まで5年に1度の間見直しのときしか実施していなかった。傾向を追いかけていく意味でも毎年行いたい。

委員 ごみの資源化について、全国的に見ても出雲市が低いのは、出雲エネルギーセンターで燃やすからという意味だったと思うが、全部を燃やすのではなく月に1回くらいは集めて資源化してはどうか。国の方針に合わせて、「分別が地球を救うのだ」というような意識づけの意味で取り組んでいただきたい。

事務局 ケミカルリサイクル等なんらかの形で再資源化したい。不燃物のあり方検討で企業との意見交換をしていく。時間がかかるかもしれないが、再資源化をするために新たに多くのCO₂生産しないような方法を模索したい。

委員 多伎町・湖陵町では、レストラン・宿泊を備えたものが新たにできつつあるが、周辺の海岸をみると、海岸漂着ごみ（ペットボトル・発砲スチロール）がたくさん落ちている。令和5年(2023)2月19日ごみ拾いをする予定で、土のう袋100個を目標に計画している。目標参加人数は1000人で、4月開店予定のアイスクリーム屋さんの割引券を参加者に配ることも検討している。できる限りのところは自分たちでやろうという考えでいるので、ご協力お願いしたい。

- 委員 海岸漂着ごみは難しい問題で、県から補助金をつけてやっているところだが、市にも回収費用を一部負担してもらっている。地元の力でできるところをしていただいて、その処理を市で回収するよううまい仕組みを作っていただきたい。県も問題意識を持って取り組んでいる。
- 会長 ごみの仕分けや責務の所在等、厄介な問題があると思うが、行政には市民目線で取り組んでいただき、結果海岸線がきれいになればと思う。
- 事務局 今後はリサイクル率を上げていくことを目指していく。そのためにもPRだけではなく、出雲エネルギーセンターでの学習内容充実について検討していきたい。
- 会長 参加して楽しいようなものを検討してほしい。
- 事務局 いただいたご意見から新たな気づきや修正があった。今後、重要な内容変更はないと思うが、もしあれば随時会長と相談させていただき完成させる予定である。補足だが、出雲市環境総合計画のエネルギー関係の表について、パーセンテージが合計して100%にならない部分がある。これは四捨五入によるものであるが、注釈または調整する形で整える。

【議題1・2について】 拍手をもって承認いただいた。

(3) 答申について

- 事務局 出雲市環境総合計画の答申については、詳細調整したうえで2月15日(水)10時から出雲市役所で行う予定。
- 会長 ご都合のつく委員は一緒に答申することとしたい。